2027年度

日本記者クラブ賞・同特別賞
候補者推薦のお願い

日本記者クラブ賞は創設から半世紀以上の歴史を持つ「プロが選ぶベストプロ」に与えられる賞です。

クラブ会員、または法人会員社に属する個人を対象とした「日本記者クラブ賞」、当クラブ会員以外、あるいは会員社の取材チーム・グループが対象の「日本記者クラブ賞特別賞」の２つの部門があります。

両賞は日本のジャーナリズムの高い水準と優れた業績を示すものであり、日本記者クラブの公益目的事業でもあります。賞の趣旨をご理解いただき、両賞の候補者を積極的にご推薦くださいますようお願いいたします。

日本記者クラブ賞の推薦方法が新しくなりました。詳細は次のページ以降をご覧ください。

締め切り　2027年１月29日（金）必着

公益社団法人
日本記者クラブ
Japan National Press Club

〒100-0011
東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル９階
問い合わせ：電話 03-3503-2727
https://www.jnpc.or.jp/

日本記者クラブ賞

日本記者クラブ賞の目的は規約第２条で「取材、報道あるいは評論活動などを通じてジャーナリストとして顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を顕彰する」としています。内規で定める選考基準、推薦方法等は以下のとおりです。

選考基準	(1) 現役ジャーナリスト個人に与えられる賞である（現役という意味は現に活動しているということで、故人は対象としない）。 (2) スクープ賞ではなく、特に最近数年間の業績が顕著であることが重視される。 (3) その存在および業績がジャーナリズムの活性化と成熟にインパクトを与えるような個人を顕彰する。
授賞対象	日本記者クラブの会員、または本クラブの法人会員に属する者
推薦できる者	日本記者クラブ会員
推薦方法	①推薦者が推薦理由、参考資料すべてを用意する場合＝従来方式 日本記者クラブのウェブサイトにある応募フォームに必要事項（推薦者情報、推薦理由など）を入力の上、参考資料を事務局に提出してください。 ②推薦者が推薦理由のみを用意する場合＝新方式 日本記者クラブのウェブサイトにある応募フォームに必要事項（推薦者情報、推薦理由など）を入力してください。被推薦者と相談の上、いただいた推薦内容を被推薦者が所属する社に事務局が報告します。推薦するかどうかは社の判断になりますので、必ず推薦されるとは限りません。②の場合の推薦理由提出締め切りは**2026年12月14日（月）**です。 応募フォーム　https://www.jnpc.or.jp/award2027 ※被推薦者が**会社に属さない個人会員**である場合は②の方法の推薦はできません。 ※「推薦の流れ」の図も参照ください。 ※過去に推薦された候補についての再推薦も可能です。
参考資料	イ．記事例 代表的なもの最大限10種（企画・連載ものは１回掲載分を１種とする） ロ．書籍 選考材料として最もふさわしい著書１冊 ハ．映像ないしは音声 代表的なもの１本。このほかに候補者の番組制作面での役割の重要性などを説明する映像・音声（20分以内）などの資料の添付も可 **※参考資料は21組ご用意ください。**ただし、映像・音声資料はデータ共有での応募も可能です。詳細はお問い合わせください。 ※参考資料は原則として返却しません。
賞　　品	賞状および副賞
応募締め切り	2027年１月29日（金）必着

日本記者クラブ賞特別賞

特別賞は規約第６条で、「原則として本クラブの会員または法人会員に属するもの以外を対象に、内外のジャーナリストやジャーナリズム活動に特別賞の授賞を決定することができる」としています。内規で定める選考基準、推薦方法等は以下のとおりです。

選考基準	(1) 特別賞はジャーナリズムの向上と発展につながる特筆すべき業績や活動を幅広く顕彰する。 (2) 活動の場が日本国内か国外か、日本人か外国人か、現役か故人かは問わない。媒体の種類も問わない。
授賞対象	日本記者クラブの会員以外の個人・団体 本クラブ法人会員社の取材班、報道チーム等 ※個人でも、取材報道チーム・ジャーナリズム団体でも特別賞の対象になる。原則として本クラブの会員（個人、法人）以外を対象とするが、特定の取材班・番組班などチームとしてのジャーナリズム活動については会員あるいは会員社でも対象から排除しない。
推薦できる者	日本記者クラブ会員 日本新聞協会あるいは日本民間放送連盟加盟社に属する者
推薦方法	①推薦者が推薦理由、参考資料すべてを用意する場合＝従来方式 日本記者クラブのウェブサイトにある応募フォームに必要事項（推薦者情報、推薦理由など）を入力の上、参考資料を事務局に提出してください。 ②推薦者が推薦理由のみを用意する場合＝新方式 日本記者クラブのウェブサイトにある応募フォームに必要事項（推薦者情報、推薦理由など）を入力してください。被推薦者と相談の上、いただいた推薦内容を被推薦者が所属する社に事務局が報告します。推薦するかどうかは社の判断になりますので、必ず推薦されるとは限りません。②の場合の推薦理由提出締め切りは**2026年12月14日（月）**です。 応募フォーム　https://www.jnpc.or.jp/award2027 ※被推薦者が**会社に属さない非会員の個人**である場合は②の方法の推薦はできません。 ※「推薦の流れ」の図も参照ください。 ※過去に推薦された候補についての再推薦も可能です。
参考資料	イ．記事例 代表的なもの最大限10種（企画・連載ものは１回掲載分を１種とする） ロ．書籍 選考材料として最もふさわしい著書１冊 ハ．映像ないしは音声 代表的なもの１本。このほかに候補者の番組制作面での役割の重要性などを説明する映像・音声（20分以内）などの資料の添付も可 **※参考資料は21組ご用意ください。**ただし、映像・音声資料はデータ共有での応募も可能です。詳細はお問い合わせください。 ※参考資料は原則として返却しません。
賞　　品	賞状および副賞
応募締め切り	2027年１月29日（金）必着

推薦の流れ

■推薦者が全て用意する場合

推薦理由を応募フォームに登録し、参考資料21部を事務局に提出

■推薦者は推薦理由のみ用意する場合

推薦理由を応募フォームに登録
締め切り:2026年12月14日（月）

↓

被推薦者と相談の上、被推薦者が所属するX社に事務局が報告

↓

報告を受けたX社は推薦するかを検討

↓

推薦する　／　推薦しない

↓

X社が参考資料21部を事務局に提出

↓

締め切り：2027年1月29日（金）

選考と表彰

（1）推薦委員会は締め切り期日までに推されたすべての候補について審査し、日本記者クラブ賞と同特別賞それぞれについて、適格と思われる候補を若干名に絞り選考委員会に具申します。推薦委員会の委員は理事会の議を経て理事長が任命します。現在はクラブ個人D会員の6人で構成されています。

（2）選考委員会は推薦委員会が審査した結果を参考にして選考し、受賞者を理事会に答申します。選考委員会は原則として総務委員会委員（現在は15人）で構成されます。

（3）理事会は選考委員会の答申に基づき、受賞者を決定します。

（4）贈賞式は2027年5月に行われる定時社員総会後に行います。

2026年度受賞者

※全受賞者はウェブサイトに掲載。
https://www.jnpc.or.jp/outline/award

日本記者クラブ賞

菅谷齊（ジャーナリスト、共同通信社社友）



50年以上、プロ野球を取材し、コラムを書き続ける。『日本プロ野球の歴史―激動の時代を乗り越えて―』は、スポーツの精緻な記録にとどまらず、「二・二六事件」の年に産声を上げたプロ野球リーグ戦が、歴史の荒波にもまれながら日本の社会に根付いていった様を、豊富なエピソードとともに描き、スポーツジャーナリズムの価値を高めた。

特別賞

東日本放送「旧優生保護法問題」取材班



旧優生保護法下の強制不妊手術に世の中が注目していなかった1997年から宮城県の被害者の訴えに耳を傾け、早い時期に番組を通して非人道性を訴えた。4人の記者と1人のプロデューサーがバトンをつなぎ1人の被害者に寄り添い、旧優生保護法を憲法違反とする最高裁判決を勝ち取るまで追い、地方に根差したジャーナリズムの公共的な役割を示した。

特別賞

ＴＢＳテレビ「報道特集」兵庫県問題取材チーム



兵庫県政と県知事選挙の混乱を追うキャンペーン報道により、デマや中傷がＳＮＳを通じて拡散され、人権を踏みにじり、選挙の結果にまで影響を及ぼすさまを追った。番組関係者のみならず、スポンサーまでもが激しい攻撃にさらされる中、事実を追及する姿勢を貫き、デマ拡散の仕組みに深く切り込んだ調査報道は、現代社会の病理を浮かび上がらせた。